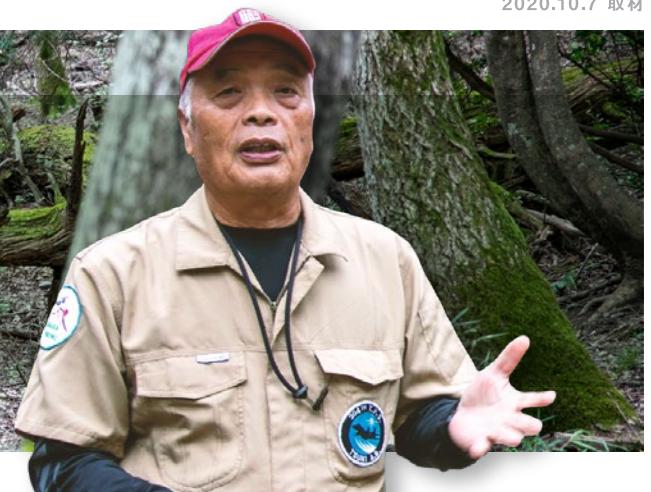


木の上のキャンプサイトで、 豊かな森の自然を楽しんでほしい

上板並区・里山を守り生かす会

代表 伊賀並 正信 いがなみまさのぶ



ツリーハウスに泊まって「自然」を楽しんでほしい

木に貼っている青いテープのところに、ツリーハウスを作ろうと計画しています。ツリーハウスと言っても、家を作って木に結びつけるのではなくて、まず四角い土台を組んで上に組み上げて行くイメージ。木を支えにしていると、メンテナンスが大変だし風が吹いたりしたら危ないですから。



イメージは、土台と屋根のある独立した空中のキャンプサイト。テントを張る6畳ほどのスペースがあって、下まではしごが掛かっていて。6メートルほどの高さがあると、見える景色もかなり違うと思います。将来的にはもうひとつツリーハウスを建てて、ワイヤーや橋で繋げて移動できるようにしてもおもしろいなと考えています。

この2本は、ハイジのブランコにしようと思って。ものすごく大きいブランコです。外側の木を残したのは、外周をぐるっとワイヤーやロープで囲えたらいいなと思って。この辺は動物もけっこう来るんですよ。



この場所には昔、4、5ヘクタールぐらいの田んぼがありました。山の中に田んぼを作ると、遮るものがないから日光が当たる時間が長く、稻がよく育つというメリットがあったんですね。山の下からここまで歩いて上がって来て農

作業をしていたのですが、労力に見合わないということで一斉にやめてしまつて、代わりに木を植えたので今のような景色になりました。



切り株はこうやってベンチにしたりね。木の上に泊まりながら、シカやイノシシなどの野生動物を見たり、星を眺めたりして「自然」を楽しんでほしいなと思います。山の中だから、周りのことを気にせず自由に過ごしてもらえるのも良いですね。

聞こえるのは風の音と、虫や動物の鳴き声だけ

少し前までこの辺りは通れなかったのですが、もともとあった林道を修復して人が来られるようにしようと、林道の再生を始めました。

切り開いてきたところに木を植えて、山野草などを育てて山菜ロードにしようと考えています。

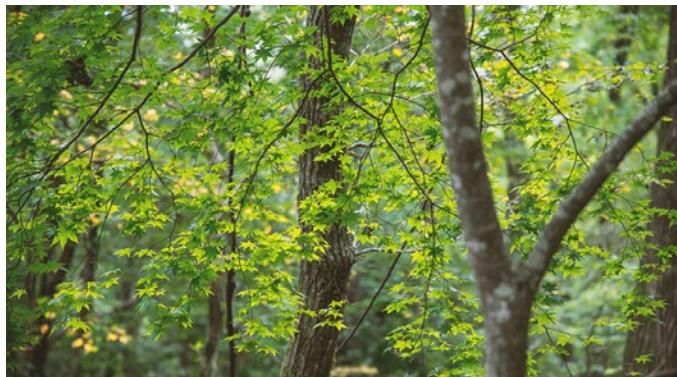
先ほどの計画とあわせて、木の上でキャンプができる、太陽光発電の仕組みが整備されていて、車で乗り入れができるような、ちょっと変わったキャンプサイトにしたいなと思っています。

木を切って、倒して、集めて、といった作業をしてきましたが、すごく大変なんです。だから今は、良さそうな場所にポイントを絞って開拓していくと思っています。例えばこっちはオートキャンプができるところ、あっちは家族向け、ある一角は純粋にキャンプを楽しみたい個人用などという形です。



この林道は3.2キロメートルあって、ものすごい上に続いているのですが、先の方は潰れてしまっています。ここまで来るのにも、かなり改修してきました。散策やキャンプを楽しんでもらうために、この道を県道に繋げて、車で簡単にアクセスできるようにしたいと思っています。

こうして切り開いてきたことによって、柿の木などがまた育つようになりました。以前は下草も生えなかったけど、今はぜんぜん違う。間伐したことで光が入って、シダなどのいろんな植物が生えるようになって、森の中に緑が増えました。



こうやってナラの木などが生えている自然林の中でこそ、キャンプを楽しんでもらいたいんです。自然林って、なかなか身近には無いですから。1区画1組限定で、広い場所を自由に使って、自分達の好きなように楽しんで欲しいですね。

この道はまだまだ先まで続いているから、もっと上の方に散策に行っててもおもしろいと思います。特に紅葉の時期はめちゃくちゃ綺麗ですよ。本当にいい場所です。トチの実や栗がたくさんなるから、動物も多い。そういう山の動物を観察することもできるし、キノコ狩りもできるかも。昔はこの上の方で松茸がとれたんですよ。



ここにいると、余計な音が何もしないでしょう。聞こえるのは風の音と、虫や動物の鳴き声だけ。あ、栗が落ちていますね。これも自然の栗です。



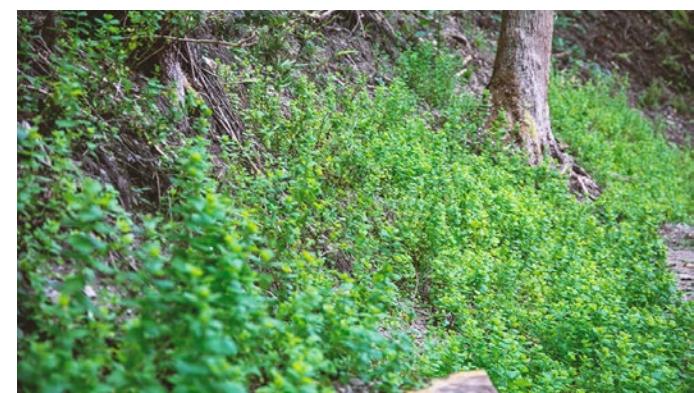
杉などが植えられた人工林はよく見ると思うが、なかなか本物の自然林に出会う機会はないですよね。これだけ広葉樹がたくさん残っていて、鬱蒼としているないし、明るい。僕はこの雰囲気が好きなんです。あくまで、自然。山の神に遊ばせてもっているような感覚になります。

ツリーハウスの場所からこの辺までは歩いて30分。散策コースにちょうどいいと思います。ほら、鹿の鳴き声が聞こえますね。この森の中で、1組だけ貸し切りでキャンプできたら楽しいだろうなあ。

適度に深山で、アクセスが良い。米原駅から1時間ほどで来られるし、名古屋からも近い。こんないい所があることを、もっとたくさんの人に知ってほしいですね。

ひとつのアイデアが、また別の計画に繋がる

こうやって見ると、葉っぱが違うでしょう。モミジがあり、ドングリの木があり、栗の木があり。たくさんの広葉樹が多く育つ、いい森なんです。春夏秋冬でいろんな表情を見せてくれる。これが本当の森。これから秋にかけて紅葉が始まりますが、色も早さもそれぞれに違って、ものすごく色鮮やかな森になります。



今、あそこにミントを植えてあります。獣害がないもの、つまり動物達に食べられないものを植えようということで、まずヨモギとミントを植えました。これがどんどん広がっていけば、緑が増えるし、ハーブが楽しめていいなと思っています。

他にも、いろんなアイデアがあるんですよ。例えば、メモリアルツリー。記念日などに、自分が好きな木を植える場所を提供するというものです。そうすると、毎年この場所に木を見に来る楽しみができますよね。

これから下に抜けて県道に繋がる道ができたら、マウンテンバイクで山の中を走れるような道も作れたらいいなと思っています。こうやって思いついたひとつのアイデアが、いろんな方向に広がって、また別の計画に繋がるのがおもしろいですね。

この活動を興味のある人に継承していくことが目標

10年前から家で薪ストーブを使うようになって、それがきっかけで、退職してから薪屋を始めました。そこからいろんなジャンルの人と繋がりができましたね。

僕が今やっているのは、山林の修復、ドローン利活用研究会、地域産品を生かして地域の技術で地域商材をつくる活動です。まとめて言えば「森を元気にして、その恵みを楽しんでも人も元気になろう！」という活動でしょうか。



メンバーは全部で7~8人。集まったきっかけは、ここにある「イザゼン」作りです。イザゼンは農薬、化学肥料を使わずに地元で栽培した大納言小豆を使用してつくった「イザ」災害にあった時に食べられる「ゼンザイ」。米原市の「お茶の間創造事業」の一環で作ったもので、今の活動はその発展形としてずっと続いているものです。



いろいろ活動している中で、森を活用して、ニッチな層に向けたキャンプサイトを作りたいと思うようになりました。まだ計画段階ですが、一度この場所で、体験のような形で実際にテントに泊まってみたいですね。法雲さんの炭でジビエを焼いて、夜は星空を見ながら語り合って。そこから出たアイデアをまた取り入れて、計画をもっと発展させたいなと思います。



僕らはもうすぐ70歳になるから、ゆくゆくはこの活動を興味のある人に継承していくことが目標です。こういった山の活動は、1年や2年で完成するものではありません。

地元の人でなくても、興味を持ってくれる人が出てきてくれれば嬉しいですね。自分が山岳ガイドになって訪れる人を案内するとか、継承することで誰かの仕事を生み出すきっかけにもなればいいなと思います。

伊吹北部地域
やまの健康
推進プロジェクト

私たちの活動について

私たち、伊吹北部地域やまの健康推進プロジェクトは、滋賀県が制定する「やまの健康」事業に沿って、米原市伊吹北部地域の自然環境・山の環境の魅力を発信しながら、『やま』を健康にすることを目的に活動しています。

伊吹北部地域での活動は、「東草野炭焼&食文化保存会」、「上板並区・里山を守り生かす会」、「伊吹山スロービレッジ」の3団体で構成しており、各団体それぞれが「やまの健康」を守り、自然とふれあう「うるおいとやすらぎの交流ゾーン」として、未来へ向けて多面的な活動を行っています。

■公式サイト

<https://yamano-kenko.com/>

